



鵬友会 ニュースレター

鵬友会ホームページ アドレス
<http://www.goodream.co.jp/hoyukai/>

第39号

発行:2009年7月15日
発行責任者:
特定医療法人社団 鵬友会
事務局長 池島 守

湘南泉病院で活動をはじめたNSTについて

湘南泉病院 医師 塩谷 淳



NSTとは、Nutrition support team (栄養サポートチーム)の略称であり、(産科の用語でも裏日本の某TV局でもありません)主に入院患者の栄養問題の改善に取り組む多職種集団のことです。病気と栄養管理というと、思い浮かぶのは糖尿病のカロリー制限とか腎疾患の低蛋白食あたりでしょう。しかし、NSTの対象はより広く栄養問題を抱えた患者さん ほとんどが障害ですが、時に高度肥満も ということではささかおもむきを異にしています。

栄養改善の重要性は、I・イリッチの『脱病院化社会』での指摘をあらためてあげる必要もないでしょう。1970年にアメリカで始まり、80年代に全米・欧州に広まったNSTは回復日数・在院日数・再入院率・死亡率等の改善に寄与することで、実績を積み重ねてきました。日本では、やや形を変えて(専属のスタッフをおかず《おけず》、各部署から一般業務を行いながらNST活動を担当するメンバーを少しずつ出し合う=持ち寄りパーティー方式)、全科型としては1998年の鈴鹿市立病院をかわきりに導入が始まったばかりであり、まだ発展途上段階です。

現在、当院では医師2名・各病棟看護師1名・栄養士2名・薬剤師1名・検査技師1名のメンバーで、週1回のペースで会合・回診、月1回の勉強会を行っています。

まずピックアップされた対象患者さんについて
・病歴、身体計測、検査データから主観的・客観的の両面から現状把握
・病態をふまえて投与量(カロリー・栄養素・水分)の検討・決定
・次に補給経路・形態の検討・決定
約1週間後に実施後の経時変化を評価し、継続の適否・プランの修正。以上がおよその流れです。

尚、当院は2009年春、日本静脈経腸栄養学会より、NST稼働施設として認定されました。以下の1年やってきて感じたことを思いつくまま述べます。

高度の栄養不良の高齢者が多い、いわば特殊環境下の当院においてのNST効果についての本音は「もうしばらくやってみなきゃわからない」、「より早期介入は必要そう」

医療費制限効果ばかり注目され、このシステムの後押しになっているのは事実だが、これは二次の効果であって、まず回復の速さ・死亡率低減に寄与するように発展に努めるべき。

いくつかの面で「ブレイクスルーが欲しい」
高齢者の多い当院でも(広範囲な消化管切除後の人が幸い少ないせいもあるが)消化管の消化・吸収機能自体に問題を感じることは少ない。いかに継続的に安全・確実に食品あるいは栄養剤を小腸まで到達せしめるかに困難を感じる人が多い。嚥下の問題・胃食道逆流の問題・胃以下の消化管の運動機能、特に3番目の問題改善が私見だが、最も実現に近いのでは。

後期高齢者のTPN(完全静脈栄養)は、肝障害が予想以上に多く。超高齢者こそEN(経腸栄養)が望ましい。

NSTを一時的な流行語に終わらせる事のないよう(この約20数年の形態学的画像診断法発達の導入活用成功施設をかいまみた個人的感想でもあるが)、平凡ですが より早期介入を考慮に入れた地道な継続 + アンテナを高く上げ最新情報をキャッチをモットーに形式的書類は最小にして実のあるものに努めていきたいと考えておりますので、今後ともNST各メンバーはもとより、全職員に協力のほどをお願いする次第です。

市民向け医療・福祉講座 開催!

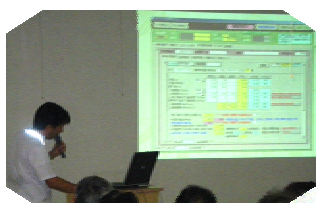
平成21年7月18日(土)14時より、湘南泉病院にて「高齢者の栄養を考える」講座(パート)を開催し、ご家族や施設職員の方々、町内の方々、計78名の参加人数で会場は溢れる状況でした。講師 末盛先生より、「**高齢者の栄養に関する諸事情**」についての講義があり、

当院にて平成20年度に発足した栄養サポートチーム(NST)の活動報告、取り組みについてサポート医の塩谷医師、深瀬薬局長、古澤管理栄養士、小澤看護師から事例報告がありました。また、松下言語聴覚士から**嚥下造影検査(評価と対策)**の講義があり、内容の濃い講座であつというまに終了しました。

参加者からは「NSTの取り組みについて理解できた」「NSTの活動をIT化されていて各部門での活動がよくわかりました。」等、積極的な意見があり、これからさらに充実した活動を目指していこうとメンバー一同決意を新たにしました。



【末盛副院長】



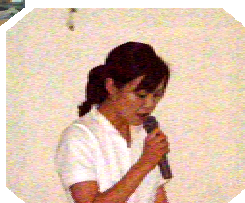
【深瀬薬局長】



【塩谷医師】



【古澤管理栄養士】



【小澤看護師】



【松下言語聴覚士】



【参加者】

鵬友会職員研修！職種を越えて100人超の参加

～ 講師に菅先生を迎えて ～

平成21年6月24日(水)17時30分より湘南泉病院会議室にて「高齢者の摂食・嚥下機能について」の講座を開催し、鵬友会職員100人超が参加しました。

今回の市民講座は、パート1(職員対象)パート2(市民向け対象)と2段階で行うことになり、パート1で得た知識をパート2の(市民向け)講座に活かそうという目的も含め、開催することになりました。講座(パート1)では、鶴見大学歯学部 高齢者歯科学講座助教の菅武雄先生を講師としてお迎えして行いました。この講座の中で菅先生は、摂食嚥下の基本的な学習から実践例、なかでも内視鏡を使っての実際の嚥下状況を画面に映した説明は、参加者も興味津々で、もっと見たかったという感想が多く聞かれました。1時間の講座は中身の充実した内容で終了しました。



【菅先生 講義風景】



【座長 末盛副院長】



【挨拶 池島常務】



【参加者】